

# ごみの分別とリサイクルの促進

所属: 社会ゼミ

## 1. 要旨(Abstract)

ごみは資源として再利用できるものがたくさんあり、それらを正しく分別することでリサイクルされるが、実際はあまりうまく行っているとは考えにくい。そこで、日本でリサイクル率が高い都道府県を調べ、私達の身の回りでできる取り組みを考える。日本でごみの排出量が最も少ないのは長野県であり、私達の住む群馬県では38位だった。長野県では、「”チャレンジ800”ごみ減量推進事業」など、具体的なネーミングで県民に広く発信している。群馬県でも様々な取り組みが行われているようだが、県民の協力度はまだそれほど高くない。群馬県のみならずすべての地域で言える事かもしれないが、政策の具体的な取組内容を誰もがわかるように示していく必要があるのではないかな。

## 2. 序論(Introduction)

### 2.1 現状

私の住む群馬県伊勢崎市の、平成17年から令和1年のごみのリサイクル率は10%で、ごみ処理の経費は20万円増加している。平成30年度の一人1日あたりのごみの排出量は986gで、全国37位、リサイクル率は15.2%で39位。23年度はワースト2位であった(高崎新聞)。一方、日本で最もごみの排出量が少ないのは長野県であり、1日一人あたりの排出量は811g(H30年度)。H26年度から6年連続で1位を取っている。

### 2.2 リサーチクエスチョン

環境を守るための意識を積極的な行動に変えていくためには、今の取り組みにどのような工夫をすることが必要か

### 2.3 研究に取り組む意義

ごみの排出量を減らす取り組みを示すことで、一人ひとりの環境に対する意識が変わる。そして、より積極的な行動を起こすことができる。

### 2.4 仮説とその根拠

長野県と群馬県で、取り組み方に大きな差があるのではないかな。また、長野県も群馬県も農業が盛んなため、食料の廃棄方法や肥料などから学べるのではないかな。

### 2.5 仮説を検証する方法

ごみの排出量とそれに対しての取り組みについてまとめられた資料を見比べる。県のホームページや取り組みについてまとめられた資料などを使う。

## 3. 研究方法(Methods)

### 3.1 目的

この研究では、「環境を守るための意識を積極的な行動に変えていくためには、どのような取り組みをすることが必要か」ということを、「ごみの分別とリサイクル」という観点から考えていく。地球温暖化に関するニュースが報じられるようになり、以前よりもそれについて考える人が多くなったと思うが、実際に行動を起こしている人はあまり多くはない。そこで、身近なところで行われている取り組みについて研究し、私達の生活に応用する。

### 3.2 調査、実験の目的に到達する方法とその理由

インターネットを使って、日本でごみの排出量が最も低い地域を調べる。(→長野県)その地域で行われている取り組みを、地域のホームページや特設サイトから取り上げる。そして、その結果から私達の生活にも応用できる取り組みを考える。国や県が提示している情報には信頼性があるため、できるだけそのページから調べる。先行研究等がまとめられたものについては、似たものを見比べてより正確なものを取り上げる。

### 3.3 研究対象、資料、条件

研究対象はそこに住む地域の人。県民性や県の取り組み度と県民の協力度とも関係があるかもしれない。資料は国が提示しているものからライターによってまとめられたものまでである。

### 3.4 調査、実験の手順

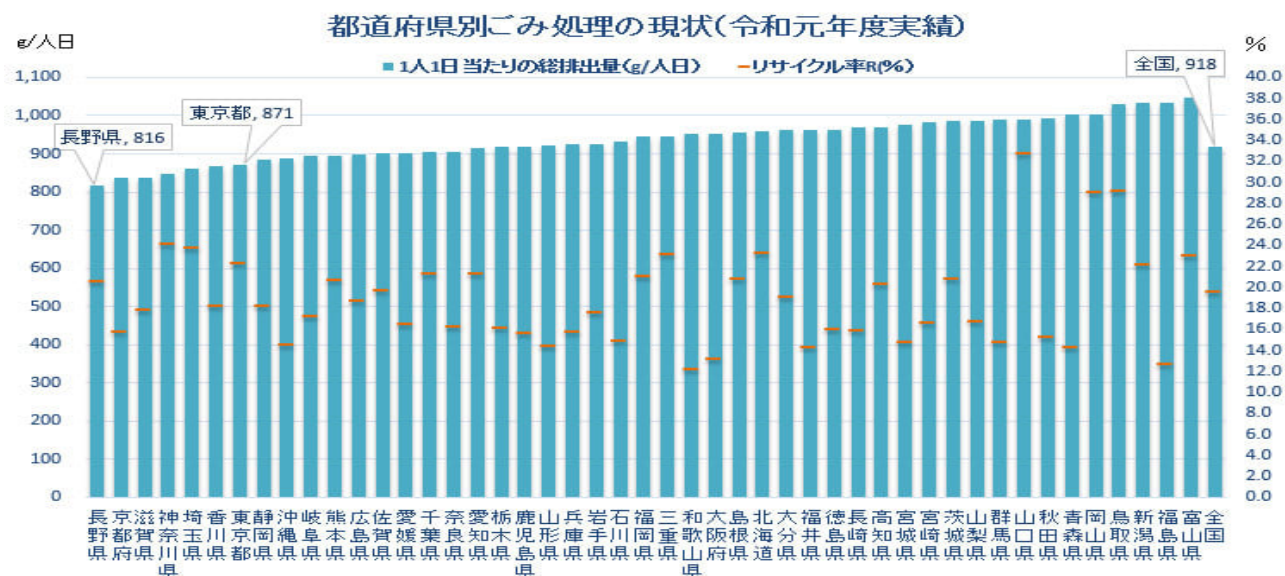
長野県と群馬県、全国平均との1日一人あたりのごみ排出量の比較をする。長野県の具体的な取り組みの内容を調べる→群馬県の取り組みを調べる→足りていないところ、応用できるところを探す

### 3.5 研究結果のまとめ方

環境省のような、内容に信頼性のあるサイトから調べてから、先行の論文を調べて、グラフにまとめる。具体的な取り組みや県ごとの排出量などの数字については、県が管理するホームページを利用して、調べたものをまとめる。

## 4. 結果・考察(Results & Discussion)

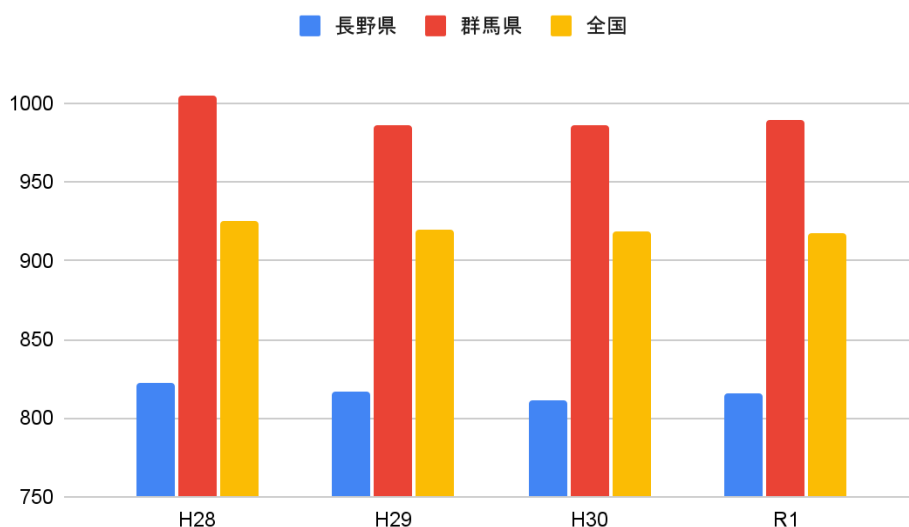
### 4.1 結果



上グラフより、日本で1日一人あたりのごみの排出量が最も少ないのは長野県であり、群馬県は38位であることがわかる(令和元年度)。また長野県は、H26年度から6年連続で一位を取っている(令和2年現在)。

下のグラフは、グラフの下にある文献を参考に、長野県と群馬県、全国の1日一人あたりのごみの排出量を比べたものである(自作)。排出量は年度を重ねるごとに減ってきているが、長野県と群馬県では大きな差があることがわかる。

## 1日一人あたりのごみの排出量



参考文献:環境省:一般廃棄物処理事業実態調査(各年度版)

長野県廃棄物処理計画(第5期)

群馬県の一般廃棄物の排出・処理状況(令和元年度)について(廃棄物・リサイクル課)

〈長野県の取り組み〉

- ・しあわせ信州創造プランより「“チャレンジ800”ごみ減量推進事業」
- ・信州リサイクル製品認定制度

県内の事業所で製造・加工され、特定の品質や安全性の基準を満たすリサイクル製品を「信州リサイクル製品」として認定するもの。

〈群馬県の取り組み〉

- ・第二次群馬県循環型社会づくり推進計画より  
「ぐんま3R宣言～できることから実践しよう～」
- ・ぐんまちゃんのごみBOOK

第二次群馬県循環型社会づくり推進計画 普及啓発冊子

長野県の取り組みとして、「“チャレンジ800”ごみ減量推進事業」というものがある。これは、2025年度までに1日一人あたりのごみの排出量を790gにすることを目標に掲げたものだ。しあわせ信州創造プランに掲げる目標である、1日の県民1人当たりごみ排出量(一般廃棄物排出量)を平成29年度には800gとするため、ごみ減量の推進を図る取り組みだ。現在は新たな目標として、2025年度までに1日一人あたりのごみの排出量を790gにすると掲げている。取り組みの一つとして、県は家庭で簡単にできる「ダンボールコンポスト」を推進している。

群馬県は、H26年度に県民を対象に「循環型社会づくりに関する県民等意識調査」を実施したところ、こうした群馬県の取り組みやごみ排出量、全国の順位について「知らない」または「あまり知らない」という回答が約84%にのぼった。

## 4. 2 考察

- ・長野県のごみ排出量減少への取り組みを調べると、具体的な計画や取り組みについてのホームページが多数見つかったことから、県が取り組みについて多くの情報を発信していることがわかった。
- ・1日一人あたりのごみの排出量には、県民の意識の違いが関係していると考えられる。

・ごみの排出量を削減するための具体的な取り組みがあるのにも関わらず、群馬県民の認知度は低かった。

・「ダンボールコンポスト」は、私達の生活にも応用できるのではないかな。

## 5. 結論・展望(Conclusions & Outlook)

長野県で、1日一人あたりのごみ排出量が6年連続一番少ないのは、県の多彩な情報発信と、真面目に取り組もうとする県民性が関係していると考えられる。

群馬県に関わらずすべての地域で、ごみの排出量を減らす取り組みを、誰が見てもわかりやすく、取り組みやすいように、情報の発信方法を変えていく必要があると思う。

「ダンボールコンポスト」など、私達の生活に応用できるものについて、情報を発信していき、実践してみたいと思う。

この研究は、SDGsの「11.住み続けられるまちづくりを」と「15. 陸の豊かさも守ろう」に貢献できると考えられる。

## 6. 引用文献(References)・参考文献(Bibliography)

環境省：一般廃棄物処理事業実態調査

都道府県別・市町村別1人1日当たり排出量及びリサイクル率の状況(平成28年度)

”チャレンジ800”ごみ減量推進事業-長野県

チャレンジ800 | 信州ごみげんねっと

長野県魅力発信ブログ

資源リサイクル・リユースに熱心な都道府県ランキング2020【完全版】

長野県廃棄物処理計画(第5期)

【5月21日】群馬県の一般廃棄物の排出・処理状況(令和元年度)について(廃棄物・リサイクル課)

県の取組 | 群馬県環境情報ECOぐんま

中村匡克「ごみ減量とリサイクル推進に向けた市町村の取り組みに関するアンケート調査-群馬県内市町村のごみ処理政策に向けて-」